

### (3) 子どもの人権

#### はじめに

児童虐待の悲しい事件が連日のように報道されます。子どもの虐待に関わる相談の件数もここ数年で急激に増加してきました。また、子どもたちの「切れ」や「荒れ」に関わる事件、増え続ける不登校やいじめの問題など、社会や学校における子どもたちの事件や揺れる心の問題が、今「子どもの人権」の角度から取り上げられようとしています。

このような、子どもたちの人権に関わる問題の背景には、その他の人権問題と同様に、これまでの歴史の中で築かれてきた社会的な風潮や固定的な見方や価値観等に起因することが多いと思われます。日本では、自分を大切にすることは、利己的で悪いことであるかのようにとられがちです。自己犠牲や皆と協調することが美德とされ、子どもたちにも奨励されてきました。しかし現実には、自分を大切にできない人は、他人をも大切にすることができません。自分を愛せない人は、他人を本当の意味で愛することはできません。「自分は人間らしく生きたいんだ」との強い思いのない人が他人の人間性を大切にできようはずがないのです。

「子どもの人権」を考えるとき、まず子どもたち一人一人に、誰にも備わっており人間として当然にもっている固有の権利の尊さ、そして自分を大切にすることを教えていくことが必要です。しかし、自分を大切にする心は本人の努力だけでは持つことはできません。まわりにあるがままの自分を認めてくれる人の存在が必要です。そのために、大人自身が教える側として自分の価値観を問われなければなりません。

大人と同じように、子どももまた一つの人格をもっている人間です。決して親の専有物ではありません。すべての子どもたち一人一人の健やかな成長を願うとき、問い改めて、大人自身の人権感覚を磨く機会と場が必要です。「子どもの人権」を守るために、子どもに対する見方や考え方を問い直す学習を進めていきましょう。

